

ごはんを食べて  
夏バテ予防だ！  
のんちゃん、  
かみちゃんです。

おかげさまで70周年  
70th  
NOGAMI

# のがみ通信

2022年7月号・NO.147



## 土用の丑の日

夏になるとどこからか聞こえてくる「土用の丑の日」。そのワードと同時にスーパーにはうなぎが並び始めます。みなさんはなぜ土用の丑の日にうなぎを食べるのか、そもそも土用の丑の日はいつかご存知ですか？

土用の丑の日にうなぎを食べるようになったのにはさまざまな言い伝えがあります。そのなかでも有力なのが、売上不振の続くうなぎ屋を助けるために蘭学者の平賀源内が土用の丑の日を宣伝したことがきっかけという説です。丑の日には「う」の付く食べ物を食べると良いという風習があったため、土用の丑の日に「本日、土用の丑の日」とうなぎ屋に張り紙をしたところ大盛況。うなぎは栄養価も高く、夏バテにもいいということもあり、夏に食べる人が増え、売上が上がるようになりました。



このことから土用の丑の日はうなぎを食べる日と根付いていったそうです。

今年の土用の丑の日は7月23日(土)と8月4日(木)です。ほかほかの美味しいごはんと共にうなぎの蒲焼を食べてスタミナをつけましょう

## 長岡花火

今年は長岡まつり大花火大会が3年ぶりに開催されます。長岡花火には「慰霊、復興、平和への祈り」という思いが込められています。幾多の災害を乗り越えてきた長岡にはいつも「花火」があり、戦災からの復興、大震災からの復興、そして今、コロナ禍からの復興、さらにはロシアによるウクライナへの軍事侵攻により多くの尊い命が奪われているという現実を目の当たりにし、世界に向け平和への思いを込めて今年の花火大会はいつも以上に意味のある開催になりそうです。コロナウイルス感染症対策を徹底するため、無料席はなく、気軽に見に来ることが難しいですが早く元の日常を取り戻したくさんの人たちに見てほしいと思います。



2019年の花火です。  
画面に収まらないほど  
迫力があります！

## 会長のひとこと

父が昭和26年に全国民営化に伴い創業致しまして71年が過ぎました。当時、月100俵位の配給割当てで親の苦勞と厳しさを家族としてみてきました。量販店様、業務用様とのお取引が多くなり精米量が際立って増え、今では月1万俵を優に超えるまでになりました。工場の気温・湿度・米の状態を見て毎日切磋琢磨して精米しています。県外のお客様が立ち寄ってくれた際、駅周辺で美味しいお米屋さんはありませんかと聞くと「千手の野上さん」と紹介してくれたので来ました。と言って当店に足を運んでくださいます。私共の基本は個人のお客様あつての米穀店です。地域に一番大切な信用を命より大切なものと心得、全国の沢山のお客様に最高の新潟米を送らせて頂く使命を喜びと感じており、これからも我が町一番店を目指して頑張ります。



株野上米穀

〒940-0087

新潟県長岡市千手2-10-20

TEL:0120-058-041

FAX:0258-84-7738

E-mail:kome@nogami-kome.jp

